

4-2-5 シンガポール都市型搜索救助トレーニング

1) 趣旨

シンガポール政府では、毎年搜索救助関係者を対象にした訓練を実施しているが、4年前より海外の専門家に対しても都市搜索救助における方策と技術を学ぶための研修コース参加への門戸を開いている。研修を実施する市民防衛学院（CDA、Civil Defence Academy）の研修施設は、アジア域内でもトップレベルの搜索救助訓練用の施設であり、メンバー国のこのようリソースを活用すべく、2001年度よりアジア防災センターからもメンバー国に呼びかけ、参加者を募集している。今年度は、カンボジア、スリランカ、タイ、フィリピン、マレーシア、ミャンマーから搜索救助関係者等が参加し、アジア防災センターで旅費、研修費等を負担した。

2) 実施期間

2004.1.12～1.23（2週間）

3) 内容

(1) 対象者

搜索救助関係者9名（6ヶ国：カンボジア1名、スリランカ1名、タイ2名、フィリピン2名、マレーシア2名、ミャンマー1名）

(2) 講師陣

シンガポール市民防衛庁スタッフ

(3) 訓練内容例

① 講義

- ・ 被害状況把握
- ・ 閉鎖的空間での搜索救助
- ・ ロープの結び方
- ・ 救助活動
- ・ 倒壊建築物の救助活動事例紹介
- ・ 搜索救助携行機材
- ・ 大惨事・小規模災害それぞれでの行動管理
- ・ 救助犬

② 実戦訓練

- ・ 閉鎖的空間での搜索訓練
- ・ 高所での救助活動
- ・ 穀物貯蔵タンク（シミュレーション施設）での搜索訓練

- ・ 崩壊ビル（シミュレーション施設）での搜索訓練
- ・ 地下スペース（シミュレーション施設）での搜索訓練
- ・ 軍の廃舎施設での搜索訓練

4) 解説

シンガポールの搜索救助訓練施設には、シミュレーション施設として、10階建ての火災用ビル、化学プラント・石油精製所モデル、瓦礫搜索訓練スペース、閉鎖空間スペース等がある。このほか、講義施設、宿舎・食堂施設、事務局等からなる。



図 4-2-5 シンガポール市民防衛学院のシミュレーション施設（左：火災救助、右：瓦礫搜索）

トレーニングコースでは、第1週目は講義と訓練、第2週目は主にシミュレーション施設を用いた搜索救助の訓練を実施した。

シンガポール市民防衛学院では、さまざまな目的で、年間に約20種類のコースの訓練を行っており、海外の専門家向けには、火災救援・救助と都市型搜索救助の2コースがある。都市型搜索救助トレーニングも年間にASEAN専門家向けと一般海外専門家向け、特定国専門家向けなどのコースがあり、講師も経験を積んでいる。



図 4-2-5-2 救助用機材の取り扱い実習

今回アジア防災センターから参加者を派遣した一般海外専門家向けコースでは、参加者のレベルやニーズが多様であったが、講師がこれまでの経験を生かし、うまく調整したため、参加者全員が全体的に最終的に満足のいくトレーニング内容となった（表 4-2-1-1 参加者へのアンケート結果参照）。

表 4-2-1-1 コース終了後のアンケート結果（ADRCからの参加者9名と他の参加者7名の計16名）
第17回国際都市型捜査救助トレーニングコース評価（2003年度）

1 コースの目的

a. コースの目的は十分に達成されたか？

非常に満足のいくものだった	5	31.25%
十分に達成された	9	56.25%
達成された	2	12.50%
少し達成できなかった	—	—
達成できなかった	—	—

2 訓練の目的

a. 訓練の目的は十分に達成されたか？

非常に満足のいくものだった	4	25.00%
十分に達成された	8	50.00%
達成された	4	25.00%
少し達成できなかった	—	—
達成できなかった	—	—

3 コースの構成と内容

a. 現在の仕事や所属組織の業務との関連

非常に関連がある	5	31.25%
関連がある	7	43.75%
ある程度関連がある	3	18.75%
あまり関連がない	1	6.25%
全く関連がない	—	—

b. コース全体の組立と準備は満足するものだったか？

非常に満足するものだった	3	18.75%
満足	7	43.75%
よかった	6	37.50%
まあまあ	—	—
不満足	—	—

c. コースの期間はどうかだったか？

長すぎる	—	—
ちょうどよかった	9	56.25%
短すぎる	7	43.75%

d. コースの進行具合はどうかだったか？

早すぎる	4	25.00%
ちょうどよかった	12	75.00%
遅すぎる	—	—

e. 配布資料は適切で読み易いものであったか？

すばらしかった	3	18.75%
とてもよかった	8	50.00%
よかった	4	25.00%
まあまあ	1	6.25%
悪かった	—	—

f. コースで利用した機材等は役に立つものだったか？

非常に役に立った	4	25.00%
役に立った	9	56.25%
まあまあ役に立った	3	18.75%
ほとんど役に立たなかった	—	—
全く役に立たなかった	—	—

4 講師について

a. 訓練の目的や方法の指導は明確だったか？

非常に明確であった	5	31.25%
明確だった	4	25.00%
よかった	5	31.25%
まあまあ	2	12.50%
分かりにくかった	—	—

b. 講師は講義の準備を十分に行っていたか？

非常によく準備できていた	9	56.25%
よく準備できていた	5	31.25%
準備できていた	1	6.25%
まあまあだった	1	6.25%
あまり準備できていなかった	—	—

c. 講師は理解を助けるために実践的な例をあげたりデモンストレーションを十分に行っていたか？

非常に満足いくものであった	9	56.25%
十分行っていた	5	31.25%
行っていた	1	6.25%
まあまあ	1	6.25%
あまり行っていなかった	—	—

e. 参加者と講師の相互関係はよかったか？

非常によかった	6	37.50%
とてもよかった	5	31.25%
よかった	5	31.25%
まあまあ	—	—
悪かった	—	—

シンガポールは、捜査訓練に対する設備と人材を有している。本プログラムは、メンバー国が有するリソースを活用してニーズの解決を図るもので、アジア防災センターでは今後もこうしたタイプのプロジェクトを推進していきたい。